

第2回 笠岡市新病院基本構想有識者会議 会議概要

1 日 時 令和2年11月17日（火） 午後7時から午後8時55分まで

2 場 所 笠岡市中央公民館 集会室

3 出席者 笠岡市新病院基本構想有識者会議委員 12名

市長，政策部長，総務部長

笠岡市立市民病院 院長外7名

傍聴者 笠岡市議会議員 4名

笠岡市立市民病院職員 9名

備中保健所職員 1名

基本構想策定支援業務受託業者 3名

事務局 3名

4 議事概要

(1) 事務局説明

1) パブリックコメントの実施結果について

2) 医療機関アンケートについて

3) 患者推計及び必要病床数の推計について

原案を基に、直近のデータからコンサルタントの再試算

県南西部圏域地域医療構想と笠岡市内医療ニーズについて

5 委員からの意見

(1) 将来の患者の推移を見る時、一番影響を受けるのは福山へどれだけ患者が流れていくかという流出量を考えるべきなので、流出率データを作成してほしい。

(2) 本来あるべき地域医療について、市民病院はどうあるべきか話すべきである。市民病院の目指す方向はどこなのか論議すべきである。

(3) 市民病院は、地域包括ケアシステムの拠点として、地元の人を地元で看取る役割を主に考えるべきである。

(4) 公的病院にしかできない機能を残していくことも必要である。療養病床でいうと、在宅で生活できない人がいるのが現実で、最後の砦としてその人を見るのが公的病院と考える。

(5) 救急医療も残してほしい。市民病院の救急がなくなれば、そのうち井笠圏域の救急医療はもたなくなる可能性がある。

(6) 市民病院は人件費が高いという意見もあるが、公的病院を担う役割から仕方がない面がある。

(7) 人口減少の割に高齢者が減少しない中で、民間病院をフォローするのは公的病院の役割でもある。

(8) 市民病院が地域医療を考える中で、基本的に必要なのか、必要であればどういった機能を持つ必要があるのかを議論するべきである。

6 今回協議を受けて次回提案資料

(1) 様々な病床でのシュミレーションを提案する。

例えば、70床、30～40床、19床有床診療所、無床診療所などシュミレーションを作成する。

(2) 介護医療院についてもシュミレーションに入れて提案していく。

(3) レセプトベースであるが、1年間の市外への流出量のデータを作成。

7 今後の予定

次回 第3回 令和2年12月15日(火) 予定